

## 新体制雇用(案)

令和5年度からは住職人生の後半と位置付けて体制を一新させていきます。あと10年で後進に道を譲れるように組織を強化してより魅力的な寺院にしていきます。常にイノベーションを起こしオープンAIにも対応できるような夢のある業務を創出したいと考えています。IT企業(スタートアップ)を誘致できるような施設も建設して見性院村の基盤をつくっていきます。宗教的デジタル革命の先駆者として時代を牽引していきます。正職員とパート職員の峻別化をしていきます。そこでこれからの雇用ですが最初は基本的にはパート職員で入社をしてもらい2年間の実績を見て正職員への道が開かれます。正職員は寺院業務の陣頭指揮ができ精力的な働きをして全体を牽引できることが条件です。パート職員でもっと働きたい場合は週3日にして副業を勧めます。満55歳を過ぎての途中入社の場合は特殊な事情以外は正職員にはなれません。余人を持って変えがたい人の場合だけです。私は勤務時間以外にも自己研鑽をして常に自らを磨き鼓舞している人を切望します。勉強家にして努力家。体力づくりと適度な睡眠による集中力のある人。人間は一人で過ごしている時こそが勝負です。遊んでばかりいる人からは企画運営力は身につきません。労働生産性も期待できません。見聞を広めているからこそ中身のある仕事ができるものです。人を幸せにできている人は自己研鑽に余念がないものです。そのような人を雇用できる企業が結局は伸びます。これからの日本社会は世の中は中小企業を中心に大倒産時代を迎えます。供養産業界はもっとも斜陽産業とも言われています。今だけが人手不足、人材不足です。失業率がこれから一気に高まりますと不労者は急増します。全体的な物価高の中で賃金と人件費と資材が高騰していれば間違いなく中小企業は持ちません。いずれ生き残って結果を出したところは完全なる買い手市場に変わります。ここはある程度は待ちの経営をする時で

す。焦らずに。淘汰されて行き場を失った難民的立場にある人が当院にどっと押し寄せて来ることは容易に考えられます。さらなる叡智を結集させて次なる一手を打っていくためにも優秀な若い人材は必要です。見性院の魅力は岩盤規制によって堅固に守られてきた業界に楔(くさび)を打ち込みこじ開けできたことです。第二の創業期としてこれからはそれをかたちにして新しい時代の仏教を寺院を構築していかななくてははいけません。上は大本山から下は末派寺院まで総崩れをしています。葬式仏教から祈願祈祷、宿坊、札所巡り、拝観、坐禅会、写経会、御詠歌の会等すべてが振いません。寺院に人は来ません。これまでのやり方では通用しません。抜本的な改革をしない限りは立ち行かなくなります。一部の寺院を残して収斂しそこに投資をして筋肉質の強固な基盤をつくるしかありません。それにはしがらみから解放されることは条件のひとつにはなりません。寺院経営の指南役としての役割。それと人生哲学 宗教思想の両面を併せ持った寺院運営を実践します。企業にも影響力をもてるような仕組みをつくります。来年度はそこに力点を充てて展開していきます。どうか来年度も是非ともご期待ください。まだまだ容赦なく仕掛けていきます。

合掌

令和5年3月31日

見性院住職